

合田幸広編，厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「生薬及び漢方処方の有用性評価手法・安全性確保と国際調和に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，国立医薬品食品衛生研究所，東京，平成 19 年 3 月，pp.117-150

生薬中の農薬残留実態を明らかにするため，15 品目の生薬について，28 種類の有機リン系農薬の分析法を検討し，51 検体の残留実態を調査した。その結果，4 品目 8 検体から 5 種類の農薬が検出された。

## 微生物部

### ○慢性活動性 EB ウイルス感染症の病態解明に関する研究

岡野素彦

平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究実績報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 19 年 3 月，pp.1-3

慢性活動性 EB ウイルス感染症において主にウイルス学的，免疫学的検討を行い免疫不全の程度に異質性のあることを報告した。

### ○薬剤耐性菌出現回避のための遺伝子治療法の開発

木村浩一

平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金（萌芽研究）研究実績報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 19 年 3 月  
腸管出血性大腸菌 O157 のペロ毒素産生のみを阻害し無毒化することを目的とし，ペロ毒素 mRNA に対するアンチセンス RNA を産生するプラスミドの構築を行った。構築したプラスミドには遺伝子発現用のプロモーターが組み込まれており，このプロモーターに対しペロ毒素遺伝子の一部を逆方向にして挿入することで，アンチセンス RNA の産生を実現させた。

### ○乳製品製造過程における危害分析に関する研究

池田徹也，森本 洋，清水俊一，山口敬治

雪印乳業株式会社 共同研究報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 19 年 3 月，pp.1-10

北海道の乳製品製造工場で受入れたバルク乳について，黄色ブドウ球菌の検出率，菌数，se 遺伝子型を調査し，さらに脱脂粉乳に残存する黄色ブドウ球菌の DNA を real-time PCR で測定し，バルク乳中の黄色ブドウ球菌数と比較した。

### ○温泉の泉質等に対応した適切な衛生管理手法の開発に関する研究

森本 洋，池田徹也，清水俊一

倉 文明編，厚生労働省科学研究費補助金（地域健康危機管理研究事業）「温泉の泉質等に対応した適切な衛生管理手法の開発に関する研究」平成 18 年度 総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成 19 年 3 月  
掛け流し式温泉の温泉成分検査，微生物実態調査及び施設の衛生管理状況調査を行い，各施設に合わせた衛生管理ポイントの検討を行った。特にレジオネラ属菌の実態把握と衛生管理についての検討を重点的にを行い報告した。

### ○北海道における HIV 検査体制と感染状況

澤田幸治，長野秀樹，伊木繁雄，地主 勝，工藤伸一

今井光信編，厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，神奈川県衛生研究所，神奈川，平成 18 年 3 月，pp.190-196

道立保健所における年間の受検者数は，即日検査導入前に比べて約 2 倍になっている。道立保健所でのスクリーニング検査における偽陽性率は開始当初は 2.1%であったが，2006 年には 0.9%と半減した。

### ○北海道・東北・新潟ブロック内の PFGE 画像解析に関する施設間差

長野秀樹，木村浩一，伊東拓也，合田 悟

寺嶋 淳編，厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「広域における食品由来感染症を迅速に探知するために必要な情報に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成 18 年 4 月，pp.30-37

同一菌株である No. 2 と No. 7 の類似度が 100%であった施設は，昨年度が 10 施設中 2 施設で，今年度は 3 施設で

あった。また、この3施設は昨年度と違う施設であることから、バンド指定の際には明確な基準が必要であることが示された。

#### ○北海道における HIV 感染の現状とサブタイプ

澤田幸治，長野秀樹，伊木繁雄，地主 勝，工藤伸一

武部 豊編，厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「アジア・太平洋地域における HIV・エイズの流行・対策状況と日本への波及に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成 18 年 3 月，pp.65-69

北海道における 2006 年のエイズ患者とあわせた HIV 感染者数は 28 名であった。感染経路別では同性間性的接触が HIV 感染者だけでは 65%であった。これらの患者情報と同時にサブタイプについて検討した。

#### ○2006/07 シーズンのノロウイルスによる食中毒事例の発生状況

吉澄志磨，石田勢津子，池田徹也，奥井登代，田中智之

武田直和編，厚生労働科学研究費補助金（食品の安心・安全確保推進研究事業）「ウイルス性食中毒の予防に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成 19 年 4 月，pp.81-89

2006/07 シーズンのノロウイルスによる食中毒 18 事例及び感染症 179 事例について分子疫学的解析を行ったところ，食中毒と感染症事例ともに GII/4 型ノロウイルスの検出頻度が非常に高かった。

## 生物科学部

#### ○エキノコックス成虫 cDNA ライブラリを基盤とした感染イヌ対策法の検討

八木欣平，加藤芳伸，鈴木智宏，孝口裕一，後藤明子

平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究実績報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 19 年 3 月  
コトンラットに感染させた多包条虫幼虫（多包虫）を実験用ビーグル犬に感染させ，感染後 40 日を経過した虫卵を保有した成虫を用いて total RNA を抽出し cDNA ライブラリーを構築した。そしてその一部について解析を行った。